

学校評価だより



～中間自己評価～

令和2年10月 発行

珠洲市立宝立小中学校

令和2年度中間期の学校評価として、生徒・保護者・教職員アンケートをもとに自己評価を行いました。1学期にとりましたアンケート結果や自己評価の結果（裏面）を含めて、今後の取組についてお知らせ致します。

今後の取組を進めるにあたっては、ご家庭のご協力をお願いしなければならないものもございます。何卒、本校の教育活動をご理解の上、ご協力をお願い致します。

本校の教育目標 ふるさと宝立の自然や人に学び、たくましく生き抜く子の育成

目指す生徒像 ◇確かな学力を身に付けた子(知育) ◇思いやりがあり心豊かな子(徳育) ◇健康・安全を育み守る子(体育・食育)

本年度重点項目

(1) よく考え、確かな学力を身につけた子の育成 (2) 思いやりのある、豊かな心をもった子の育成 (3) たくましい体力と気力をもった子の育成 (4) ふるさとを愛する心をもった子の育成 (5) プロ意識をもち、信頼される教師集団

(1) よく考え、確かな学力を身につけた子の育成

- 学力向上プランI期の重点「話す力」の育成を意識した授業実践が行われています。
- ▲家庭学習の取組状況に大きな課題があります。
- ▲地域から学ぶ機会を設定する機会がとれませんでした。



《改善策》

- ◇考えを伝え合う学習活動については、休業が長く取組期間が短かったなりに、よく意識して行われています。II期では、授業以外の場の取組も提案し、さらに取組を充実させて伝え合う力をつけていきます。
- ◇家庭学習については、長い休業の影響で、家庭での生活リズムが崩れ、取り戻せないことが原因だと思われる。ゲームやタブレットの使用とも大きく関連しており、総合的に対策をしていきます。
- ◇外部講師の招聘や校外学習は、感染症予防のため機会を設けることができませんでした。2学期以降は児童生徒の健康安全を最優先し、地域の感染状況や予防の方針に沿って行います。

(2) 思いやりのある、豊かな心をもった子の育成

- ▲教職員と児童生徒・保護者の評価の一致がみられません。挨拶運動などで声掛けされて挨拶を返す姿は見られますが、自分から挨拶できる児童生徒が少ない現状です。また、普段よく接する人などには挨拶の必要ないと判断しており、あまり接する機会の少ない人（地域の人、来客など）に対しては挨拶できているかと思っているようです。
- ▲「困っている友達がいたら助ける」の項目もおおむねよい評価ですが、前期・中期ブロックに「できていない」と自己評価している児童生徒がいます。



《改善策》

- ◇児童生徒が『自分から進んで』挨拶する機会を作ります。現行の挨拶運動を活用して、意識改善や取組の工夫を考えます。委員会活動では、2学期初めに取り組む意義を再考する時間を設けます。また学級では、学活などで挨拶ゲームのようなワークに取り組んで意識を高めていきます。
- ◇支援の必要な子を早く見つけるための取組を、1～9年の情報を共有し、進めていきます。

(3) たくましい体力と気力をもった子の育成

- ▲「5定点」を守って生活できているかどうかについて、教師と児童生徒の認識にズレがみられました。休業のため、「5定点」を意識した生活が乱れ、特に就寝時間が遅い児童生徒が目立ちます。ゲーム機やスマートフォンインターネットに接続できる機器を所持する年齢が低年齢化しており、保護者に預けているかどうかについては、児童生徒・保護者ともに「守れていない」と答えた割合が、学年が上がるにつれて高くなっています。夜遅くまでゲーム等を使用し、就寝時間が遅くなり朝ごはんも食べられないという悪循環になっています。

《改善策》

- ◇全学年でインターネット、ゲームの使用方法などについて学級指導を行います。また、保護者アンケートに「5定点」関連の項目を追加し、児童生徒との回答と比較できるようにすることを検討します。
- ☆5定点：起床、就寝、3度の食事 の時間



(4) ふるさとを愛する心をもった子の育成

- ▲地域の教材やG.Tの活用に関して、新型コロナウイルスによる休業や外部との交流も避けなければいけなかったため、行うことができませんでした。
 - ▲児童生徒の地域行事の参加については、新型コロナウイルスの影響や悪天候も重なり、多くの行事が中止になりました。7～9年生には、「地域」の行事に参加していた生徒も見られました。
- 総合的な学習で、地域の学習を行うことはできています。

《改善策》

- ◇新型コロナウイルスの状況を踏まえながら、例年通りにはいきませんが、できる限りのことを工夫しながら行っています。



(5) プロ意識をもち、信頼される教師集団

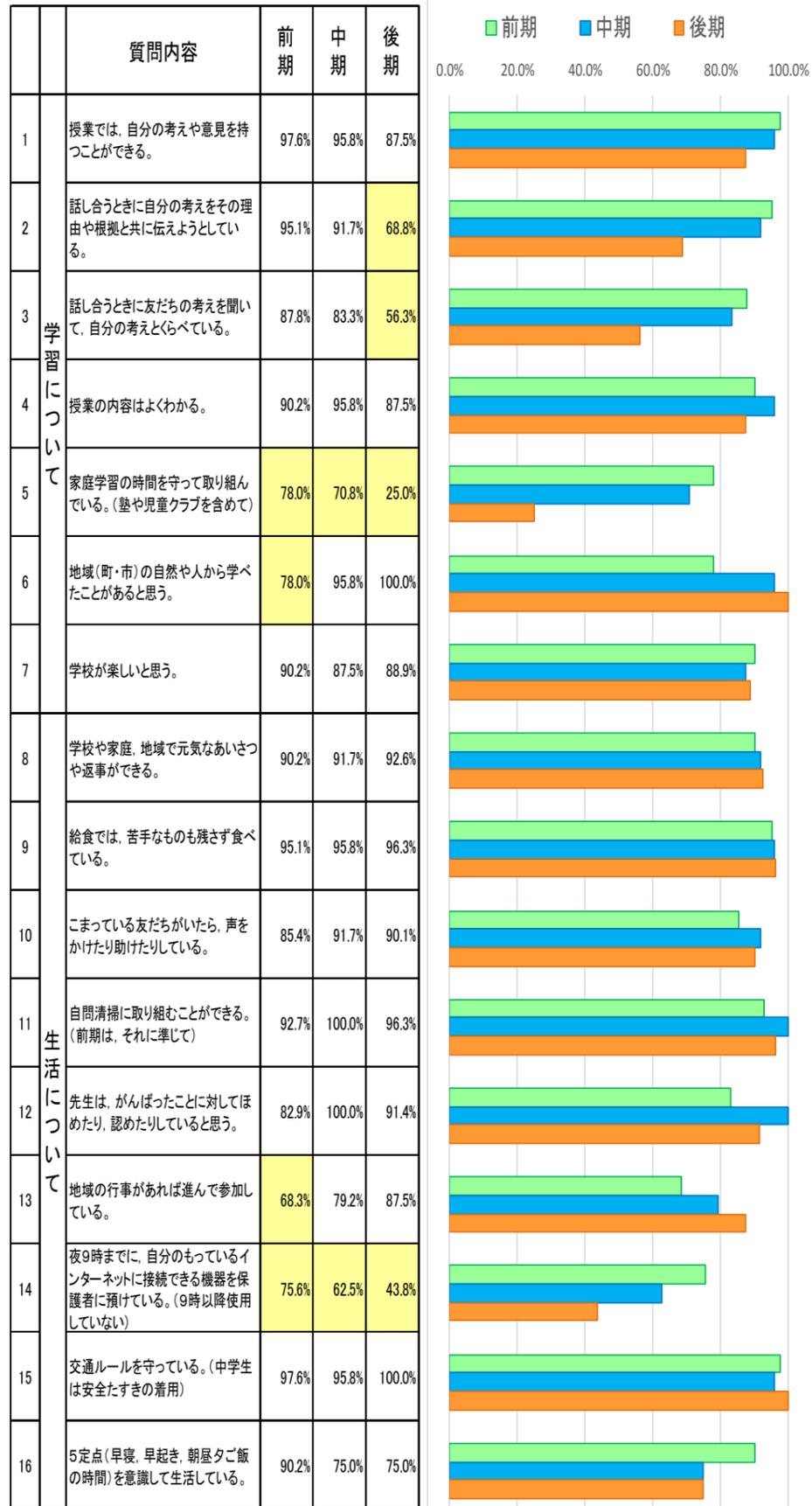
- ▲働き方改革について、昨年度よりも退勤時間については改善されていますが、まだまだ改善の余地があります。メリハリのある時間の使い方やデータ管理、体裁に時間をかけずチームでチェックするなどの工夫が必要です。
- ▲児童生徒をほめる機会を増やし、継続していく必要があります。

《改善策》

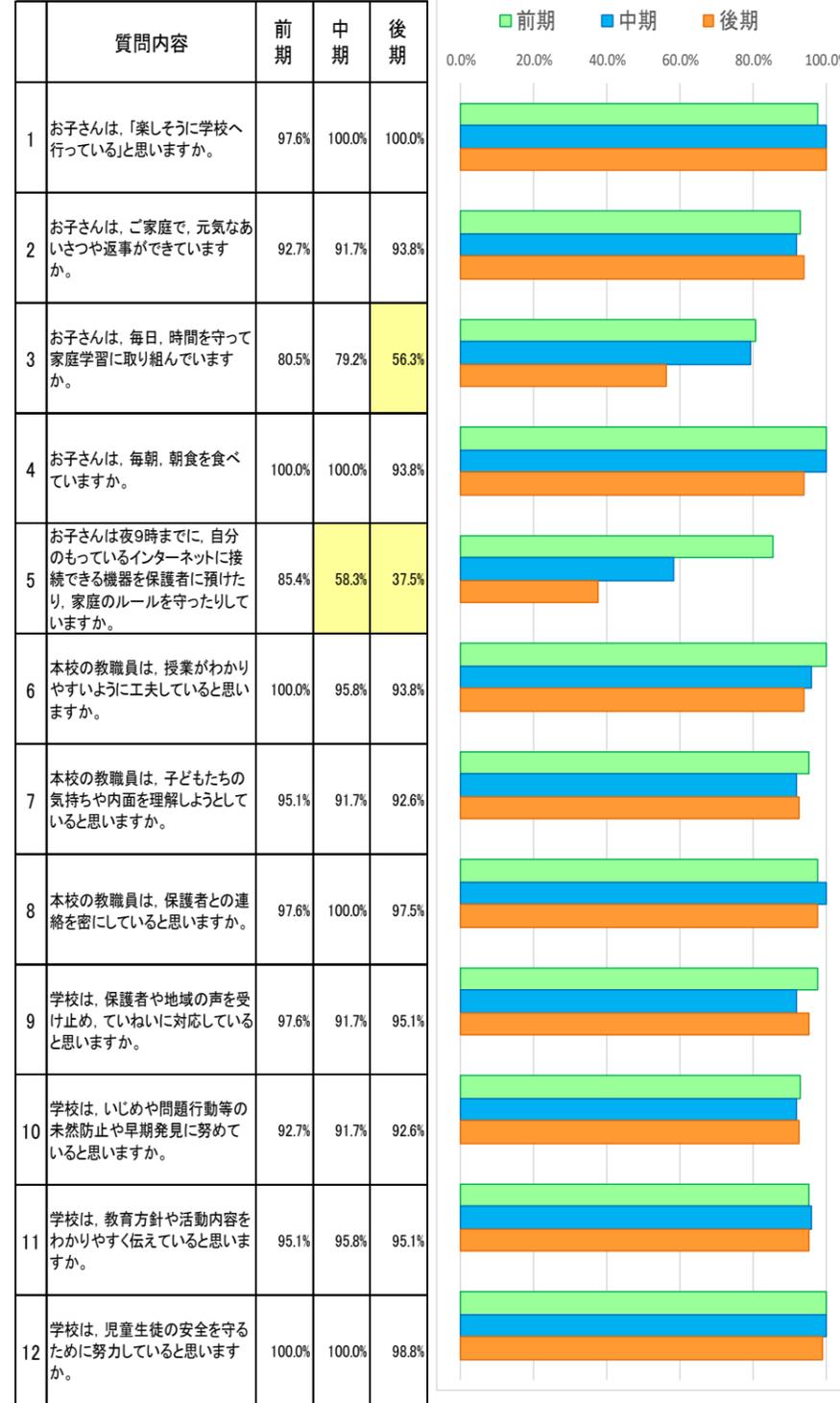
- ◇働き方改革については、校内研修を行い、実践例のシェア、声かけ、残業を止める勇気、優先順位のつけ方などを全員で考えていきたいと思えます。
- ◇児童生徒をほめる場合は、「その場で」、「短く」、「ストレートに」の3つを基本に行っています。



児童生徒アンケート結果



保護者アンケート結果



教職員アンケート結果



肯定的に回答(4または3を選択)した合計の割合を、判定基準の一つとして下記のようにアンケート結果を評価しています。また、C評価と判定した項目(朱書き)については指導・改善を要する内容にとらえ、速やかに改善策を考え対応していきます。

- ☆児童生徒アンケート A(4または3が前期:95%, 中期:90%以上, 後期:90%以上) B(前期:80%, 中期:75%, 後期:70%以上) C(それ以下)
- ☆保護者アンケート A(4または3が90%以上) B(70%以上) C(それ以下)
- ☆教職員アンケート A(4または3が90%以上) B(70%以上) C(それ以下)

